

# 細腕なんて言わせない!!

290

## 心に寄り添うの大事ですね

「頑張って走り続けます」と語る

川口 光子さん

■高齢者介護施設運営「ことほぎ」社長  
■いわき市常磐西郷町岩崎二九ノ三

電話／〇二四六―七二一〇七三〇



「常に利用者さんの側に立ち、心に寄り添って努めたいんですよ。仕事は、始めたからにはもう後には戻れません。これからもまだまだ頑張ります」と、語る川口さん

もう半世紀近くにもなる。一九七二年に出版され、大きな話題となった小説『恍惚の人』(有吉佐和子著)。認知症を患った年寄りと家族の介護をテーマとした物語だ。

今では「お年寄りの五人に一人が認知症に」といった数字も社会で独り歩きする中、「こうした病を持つ人の場合、介護ということではなく、その人の心に寄り添うことが大事とされているんです」と、自ら経験する現状を真摯(しんじ)に続けるのは、関連三施設を運営する、川口光子さん(六〇)。

川口さんは、元看護師。地元にある大手の病院で働いていた折、知人の紹介で知り合った福島県警に勤務する鶴孝さん(六四)と結婚。鶴孝さんはいわゆる「丸暴」などを担当する刑事だった。

「あの頃は疲れてしまったので」と、思い出して苦笑いする鶴孝さんは、駐在所への転勤を申し出、家族とともに駐在員として働き始めた。ところが、地域では事件続き。刑事歴のある鶴孝さんは腕

を買われ、駐在所員の身分のまま事件応援の日々。鶴孝さんが留守をする間、ピンチヒッターとして駐在所を守っていた光子さんは、地域の相談事などで訪れる住民の対応にあたる傍ら、各種書類の提出など大忙し。

## 杖突いて百歳まで頑張る

勤務の駐在地は農村地区だったが、他地区と同様、お年寄りが多い土地。病院通いをする高齢者も少なくなかったようだが、そんな折、認知症を患っていたお年寄りがため池に落ちて死亡するなど、大騒ぎになったこともあった。

こうした出来事を身近で見てきた川口さんの心に、いつしかお年寄りの生活の手伝いなどを行う施設を作りたいといった火が灯（とも）りだした。

目的、志を具現化する

ため、川口さんがいわきに転居したのは、平成十三年。すぐに鶴孝さんの手を借り、プラン作成。会社の設立とともに、同十七年、常磐地区に認知症対応型共同生活介護グループホーム「ことほぎ庵」を開所。

「ことほぎは、おめでたいとか、おめでとうという意味合いがあり、長生きして幸せな人生を、と付けました。でも、資金は借り入れでしたから、プレッシャーで夜は眠れないことも。しかし、後には戻れず、走るだけ。一日は二十四時間ですが、この倍は欲しかったですね」



こう述懐する川口さん、施設の利用枠は十二人。当初はわずか五人の利用だったものの、「あつという間に増えたんです」。

その後、隣接地に認知症対応型通所介護「寿々の木」を、泉町滝尻地内に同じく「森へゆこう」の計三施設を新設。現在は合わせると、ひと月当たり延べ六百人を超す利用者が訪れ、四十三人のスタッフが対応している。

三つの施設を開いて十六年目を迎えた川口さんは、「介護という言葉は好きではないんです。一緒に空間を大切にして生活する、利用者の心に寄り添う、これが一番。自分のポリシーです」と強調した後、「この仕事は、周囲に助けてもらっているからです。私、頑張っただけなんです。杖（つえ）突いても続けます」と、目を大きく開けながら語った。

## プロフィール

### かわぐち・みつこ

1959年3月20日、郡山市生まれ。「夫が駐在所勤務になるときは、泣く泣く行ったんですよ」と、笑う。この時の経験が今の職につながっており、「施設のプランづくりなどは夫の力で、です」と感謝。鶴孝さんは現在、同社の総務部局長。24時間フルタイムという川口さんは、「立っても寝られます」。料理好きで、「リクエストは何でもOK」。O型

■お知らせ=このコーナーでは、自ら選んだ仕事に、あるいはその人生においてひた向きに励み、努めている女性を紹介しています。情報をお寄せください。

「二十四時間の倍は欲しかったです」



# 3施設ひと月当たり 延べ600人以上利用

※このコーナーは隔月掲載です。

老人施設、高齢者、障害者の給食・社員食堂・学食・弁当販売



おもてなしを大切に、そして感動を  
テンミールグループ  
テンミール株式会社  
株式会社テンミールIWAKI アジアンミール株式会社

セントラルキッチン・移動販売業務  
仕出し料理及び仕出し配送業務  
TEL:0246-85-5524

弁当販売及び弁当配送業務  
TEL:0246-85-5332

テンミールグループ TEL:0246-68-8254 いわき市平上荒川字長尾52-2第1すずビル203号